

▼塩化カリウム徐放錠 [内]

【重要度】★★★ 【一般製剤名】塩化カリウム (U) Potassium Chloride 【分類】カリウム製剤 [徐放性塩化カリウム]

【単位】▼600mg/錠 [K 8mEq]

【常用量】4錠/日

【用法】1日2回食後

【透析患者への投与方法】透析患者では一般的に高K血症になりやすいため慎重投与 (1) 消化管通過障害のある患者では局所粘膜刺激作用により潰瘍、狭窄、穿孔をきたすことが多い。透析患者の消化管は脆弱であるため、できればグルコン酸カリウムなどの有機酸塩を用いたい (5)

【PD】低K血症のKCLによる補正で腹膜炎リスクが低下する可能性 (Pichitporn W, et al: Am J Kidney Dis 2022 PMID: 35597332)

【保存期CKD患者への投与方法】腎不全患者では高K血症になりやすいため慎重投与 (1) 消化管通過障害のある患者では局所粘膜刺激作用により潰瘍、狭窄、穿孔をきたすことが多い。腎不全患者の消化管は脆弱であるため、できればグルコン酸カリウムなどの有機酸塩を用いたい (5)

CKD G3b/4への40mmol/日の投与で血清Kが0.4mEq/L上昇し、高コロール性代謝性アシドーシスに傾むかせた (Gritter M, et al: J Am Soc Nephrol 2022 PMID: 35609996)

【特徴】低カリウムの多くは代謝性アルカローシスを伴っているため塩化カリウムは理に適っているが、塩化カリウムは種々の消化器系障害を伴いやすいのが欠点。有機酸カリウム塩の方が消化器系副作用が少ない。

【主な副作用・毒性】消化管の閉塞・潰瘍又は穿孔、心臓伝導障害、悪心、嘔吐、下痢、蕁麻疹など

【安全性に関する情報】大幅な過量投与で胃石の形成事例 (1)

【排世】カリウムの排世は腎：90%、糞便中：10% (U)

【MW】74.55

【透析性】カリウムは除去される (1)

【相互作用】エプレレノンと併用禁忌 [高K血症のリスク] (1) 抗コリン剤：消化管粘膜刺激があらわれやすいので併用注意 (1)

【主な臨床報告】食事性カリウム接種は、遠位尿管のカリウムセンサーの働きから血圧低下、CVリスク低下、腎保護に働くかもしれない (Leon SJ, et al: Am J Kidney Dis 2022 PMID: 35085685, Bovee DM, et al: Am J Physiol Renal Physiol 2020 PMID: 32985236)

【備考】服用後、錠剤がX線で造影されることがある (1) ゴーストタブレット (有効成分放出後の殻錠) が糞中に排世されることがある (1) 吸湿性が高いのでPTP開封後は保管に注意 (1)

【更新日】20240527

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。